

平成30年度



# 白川小だより

第2号 平成30年5月1日(火)

## 温かい笑顔こそが宝です ～小規模校のよさを生かして～

校長 奥村 哲也

4月18日に、1年生を迎える会を行いました。企画・運営をした6年生は、1年生に喜んでもらえるようにアイデアを出し、練習を重ねました。2～5年生は、1年生のために、楽しい発表をしたりすてきなプレゼントを用意したりしました。ゲームでは、低学年の子のことを思いやる高学年の優しい姿がたくさんありました。全校の絆が深まった、笑顔あふれる温かい会になりました。

先日、町民会館にて「義務教育学校設置審議検討委員会」が行われました。この義務教育学校設置検討の背景には、町内の児童・生徒数の減少があります。本校の今年度の児童数は48人で、10年前の半分、20年前の三分の一です。現実として、児童数が年々減っており、人数が少ないことを心配する声もあります。一方、「人数が少ないからこそそのよさを生かした学校教育に期待したい」という声もたくさんいただきました。



小規模校のよさは、①児童一人一人にきめ細やかな指導ができること、②児童一人一人に個別の活動機会が設定できること、③児童相互の人間関係が深まりやすいこと、④異学年間の交流が生まれやすいこと、⑤保護者や地域との連携が密になりやすいこと一などがあります（文部科学省の関係資料より）。

少ない人数だからこそその人間関係作りを大切にしたいと考えます。学級という横のつながりの中で、全校という縦のつながりの中で、温かい人間関係を築き、集団の中での「安心」を生みます。集団の中で得た「安心感」は、これから高校や社会に出て新たな人間関係を築いていく時の自信となることでしょう。

右上の写真は、1年生を迎える会で1年生をおんぶする6年生の姿です。この温かい笑顔こそが白川小学校の宝です。